

### 茶樹の主要な害虫に対する萌芽前防除の効果

松田和也・清水信孝<sup>1)</sup>・中村晋一郎・森山弘信・堺田輝貴  
 (福岡県農業総合試験場八女分場・<sup>1)</sup>北筑前地域農業改良普及センター)

Kazuya MATSUDA, Nobutaka SHIMIZU, Shinichiro NAKAMURA, Hironobu MORIYAMA and Teruki SAKAIDA :  
 Effect of Control before Sprouting on the Main Insect Pest in the Tea Plant

近年、消費者は安全性の高い「クリーンな茶」を望んでおり、農薬使用量の削減や安全性の高い農薬散布法が課題となっている。そこで、収穫する新芽には薬剤散布を行わず、新芽が萌芽する前に農薬散布する萌芽前防除について検討した。一番茶期に問題となるウスミドリカスミカメ、二番茶期に問題となるチャノキイロアザミウマの防除試験および一、二番茶期を通じた体系防除試験を実施し、二、三の知見を得たので、その概要を報告する。

#### 1. 材料および方法

ウスミドリカスミカメの萌芽前防除試験は、1999年に場内茶園の「おくみどり」で行った。供試薬剤はフェンプロパトリン乳剤1,000倍を用い、散布時期を萌芽前から開葉期までの4水準とした。被害芽の調査は、各区摘採した生葉150gを対象とした。

チャノキイロアザミウマの萌芽前防除試験は、1998年に場内茶園の「おくみどり」で行った。供試薬剤はアセタミプリド水溶剤2,000倍を用い、散布時期を4水準とした。虫数調査は、各区4カ所のたたき落とし法で行った。

萌芽前防除の体系試験は、場内茶園の「やぶきた」で行い、1区5aの反復なしで、試験区は、第1表に示すとおりとした。

第1表 萌芽前防除区と慣行防除区の防除体系

| 1998年      |      | 1999年 |                    |
|------------|------|-------|--------------------|
| 萌芽前        | 慣行   | 萌芽前   | 慣行                 |
| (一番茶)      |      |       |                    |
| デフエンピラドEW  | 13日前 | 13日前  |                    |
| DDVP乳剤75   | 7日前  | 4日後   | DDVP乳剤75 13日前 7日後  |
| (二番茶)      |      |       |                    |
| プロフェジンFL   | 10日前 | 10日前  | プロフェジンFL 7日前 7日前   |
| アセタミプリド水溶剤 | 5日前  | 4日後   | クロルフェナピルFL 4日前 7日後 |

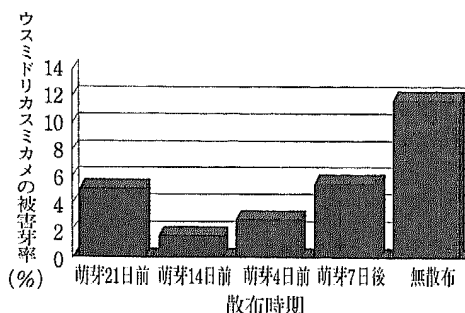
#### 2. 結果および考察

1) 散布時期の違いとウスミドリカスミカメの被害芽率  
 萌芽14日前、4日前防除区は、萌芽7日後防除区と比べ被害芽率が低く、高い防除効果を示した(第1図)。ここでは、主要品種「やぶきた」より約7日萌芽期が遅い晩生種で検討したため、「やぶきた」の場合、幼虫の発生時期からみると、萌芽期に近い時期での散布が有効と推察される。

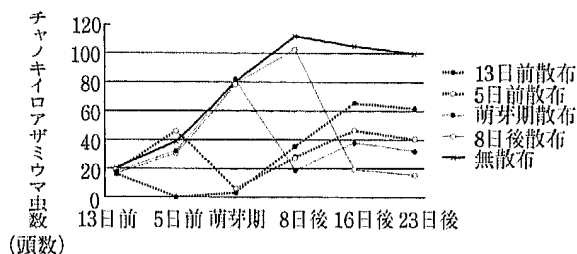
2) 散布時期の違いとチャノキイロアザミウマの虫数  
 散布時期が萌芽期より早いほど摘採期における虫数は多くなり、萌芽期に近いほど少なくなる傾向を示した(第2図)。従って、チャノキイロアザミウマの萌芽前防

除時期は、萌芽期に近い方が防除効果が高いと考えられる。

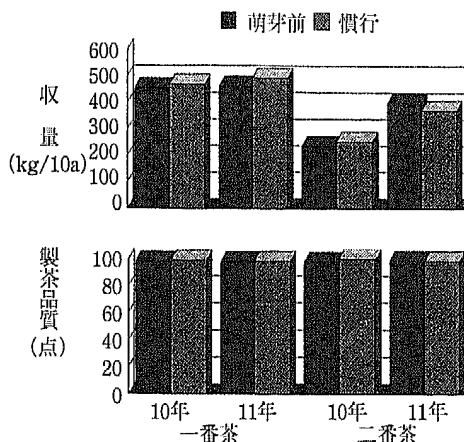
3) 萌芽前防除体系での一、二番茶の収量と製茶品質  
 収量は、年次間でやや差があるものの萌芽前防除と慣行防除との間に大きな差はみられなかった。製茶品質は、一、二番茶ともほとんど差はみられなかった(第3図)。



第1図 散布時期の違いとウスミドリカスミカメの被害芽率



第2図 散布時期の違いとチャノキイロアザミウマの虫数



第3図 萌芽前防除体系での一、二番茶の収量と製茶品質